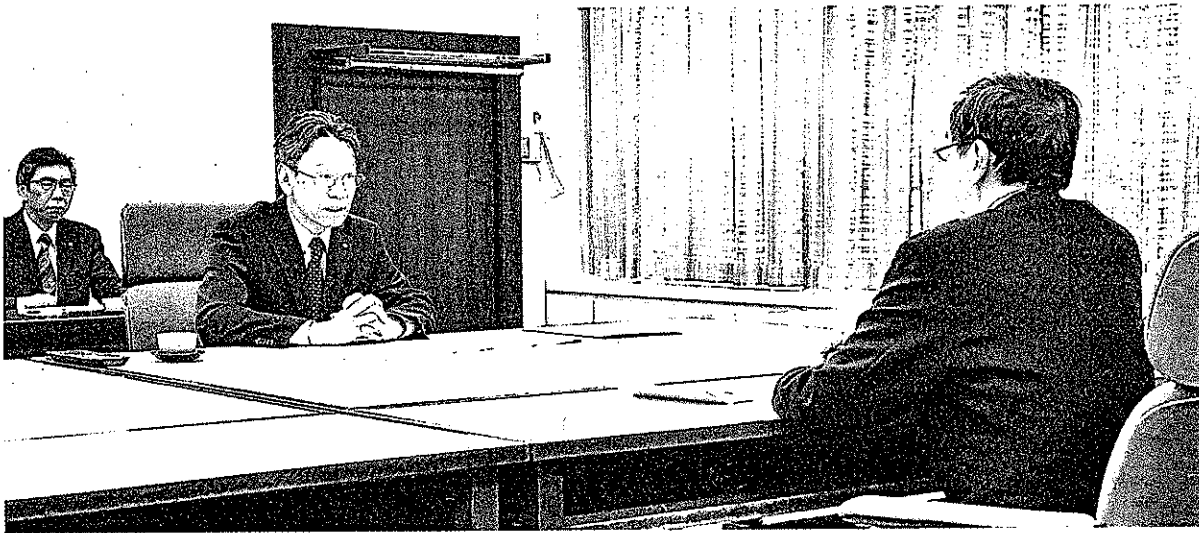


高浜再稼働 知事が了承

4号機 来月中旬にも



西川一誠知事(左)と面談する岩根茂樹社長(左から2人目)
=25日午後5時33分、県庁で(河野光吉撮影)

関西電力の岩根茂樹社長は二十五日、県庁を訪れ、昨年三月の大津地震による仮処分決定などで停止していた高浜原発3、4号機(高浜町)を再稼働させると報告した。西川一誠知事は「運転開始の手続きを取ってほしい」と了承。関西電力は今後、燃料装填などの再稼働準備を進め、早ければ4号機を五月中旬、3号機を六月上旬に原子炉を起動する見通しとなった。=関西電力(尾嶋隆宏、山谷証裕)面

関電報告3号機6月

再稼働すれば、国内の稼働原発は九州電力川内原発1、2号機(鹿児島県薩摩川内市)、四国電力伊方原発3号機(愛媛県伊方町)に続いて三カ所となる。岩根社長は3、4号機の原子炉起動時の安全性向上対策として、発電所内や現地施設である原子力事業本部(美浜町)の常駐者を増やすと説明。「安全確保を図り、安定運転の実績を積み重ねる」と述べた。西川知事は一月に発生した高浜原発での大型クレーン倒壊事故を念頭に「慎重かつ適切に作業を行ってほしい」と求めた。

一基は停止中に受けていた定期検査の最終段階にある。関電は4号機に今週中にも燃料を装填し、一カ月ほどかけて原子炉起動の準備をする。3号機への燃料装填は五月中旬の予定。燃料の一部にはプルトニウム・ウラン混合酸化物(MOX)燃料を使い、プルサーマル発電をする。4号機は六月中旬、3号機は七月下旬に営業運転に入るスケジュールだ。

岩根社長は、県議会の松井拓夫議長にも再稼働方針を説明した。地元の高浜町には関電の大塚茂樹原子力事業本部副本部長が訪れ、安全向上策を説明。野瀬豊町長は「緊張感を持ってもらわなくてはならない。現場がしっかりと仕事をできる環境をつくってもらいたい」とが大事だ」と話し、事故防止を要請した。高浜原発3、4号機は二〇一五年二月、新規制基準に適合。知事同意などを経

て、関電は一六年一月に3号機、二月に4号機を再稼働した。直後に大津地震が
運転停止を命じる仮処分を認め、仮処分を取り消した
ことと、一基とも運転を再
決定したが、大阪高裁が三
月二十八日に関電の抗告を
開できるようになった。

知事「再稼働既に同意」

関西電力高浜原発3、4号機（高浜町）の今後の動きを巡り、西川一誠知事と関電の岩根茂樹社長は「運転再開」という言葉を使い、一昨年十二月に同意した「再稼働」との違いを強調した。

（中崎裕）

西川知事は高浜3、4号機が新規規制基準への適合を認められた後、県の原子力安全専門委員会による安全確認などを経た上で再稼働に同意を表明した。ところが先月、大阪高裁が大津地裁の仮処分を取り消した際、記者団から専門委や県議会に諮るかどうかを問われると「そつうタイプのものではない」と述べ、新たな知事同意の必要性を否定していた。

西川知事は二十五日の岩根社長との面談後、記者団

高浜原発3、4号機を巡る経過

3月	東京電力福島第一原発事故
7月	4号機が定期検査のため停止
2月	3号機が定期検査のため停止
12月	福井県の住民らが福井地裁に再稼働差し止めの仮処分を申し立て
1月	滋賀県の住民らが大津地裁に再稼働差し止めの仮処分を申し立て
2月	原子力規制委が新規規制基準への適合を認める
4月	福井地裁が再稼働差し止めの仮処分を決定
12月	高浜町長、福井県議会、県知事が再稼働に同意 福井地裁が再稼働差し止めの仮処分を取り消し
1月	3号機の原子炉を起動
2月	4号機の原子炉を起動。直後にトラブルで停止
3月	大津地裁が運転差し止めの仮処分を決定し、3号機を停止
7月	大津地裁が関電の異議を退ける。関電は大阪高裁に抗告
1月	敷地内で大型クレーンが倒壊
2月	関電が全原発の安全総点検を開始
3月	大阪高裁が大津地裁の仮処分決定を取り消し、再稼働を容認
4月	関電が安全総点検の結果を報告し県が了承 関電が再稼働方針を西川一誠知事に報告(25日)
5月中旬	4号機を再稼働?
6月上旬	3号機を再稼働?

「再稼働の同意は既にしている。いろいろなことが途中であったので、そつうたことをクリアした上で運転開始の手続きをとってもらうということまでよいかと思つ」と語った。

しかし、高浜原発の事故調したが、市民団体は県に重要な状況では現場に立ち会い、これまで以上に厳格な確認をしていく」と強調した。

西川知事は「県としても安全管理への不信は高まっている。想定して昨年八月に実施された広域防災訓練では避難計画の実効性に課題が浮かび、クレーン倒壊や相次ぐ防災事故などで関電の安全管理への不信は高まっている。

専門委で改めて議論するよう求めており、立地県のトップの同意という手続きを簡略化したことで疑問の聲が高まる可能性がある。

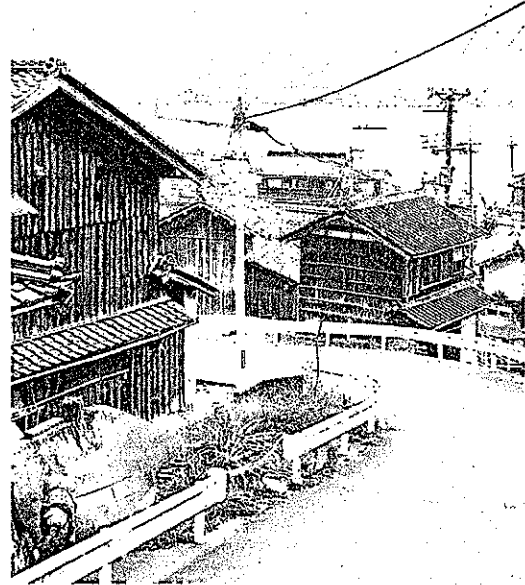
「運転再開」を強調

不安は残ったまま

高浜町音海地区。若狭湾に突き出た内浦半島の先にある人口約百三十人の漁村は、関西電力高浜原発の「地元中の地元」だ。二十五日、関電が再稼働へのスケジュールを西川一誠県知事に示し、了承されたことで高浜原発は五月中旬に動き始める見通しとなったが、足元で暮らす人々の不安は残されたままだ。①面参照 (山谷 稔 裕)

高浜再稼働知事了承

奈良県で障害者福祉施設を運営する花房康好さん(五)は再稼働が迫る今、音海地区で一人暮らしする母(八)の言葉を思い出す。「いざって時のために、みんなで暮らす土地を買っとかなあかんね」。故郷への思い入れが強く、事故が



高浜原発(中央奥)近くに位置する音海地区。町中心部へは原発の横を通る県道が1本通るだけで事故時には孤立する危険性がある＝高浜町で

音海地区避難に危機感

起きても皆で逃げたいというのが母の願いだが、現状は安心とはほど遠い。事故の際の避難路は半島付け根にある原発の横を通

る県道だけ。天候次第で地区は陸の孤島と化す。大雪に見舞われた今年の冬、「原子力防災における住民避難対策補助金」で導入さ

付かずのままであった。昨年八月の避難訓練では、その校庭に着陸するはずのヘリが強風のため来なかった。花房さんには事故の際の連絡体制も気にかかる。発電所内で一月にクレインの倒壊事故があった夜は、関電から区長に電話が一本あっただけ。放射能漏れはないからと同報無線なども無かった。「住民のパニックを恐れたんだと思うが、(事故時には)逃げられる猶予は一瞬でも逃したくないのに……」

地区は昨年末、老朽化した1、2号機の運転延長に反対する意見書を初めて関電に出した。「地元への説明が足りない」というのが理由だった。自治会長の児玉巧さん(六)は今年使用が始まった町役場の豪華な新庁舎を見ると空しくなる。遊漁船を多数所有するが、事故が起きても海が荒れていけば港を出られない。町や関電に対し、荒天でも運航できる大型船の接岸施設の整備を申し入れてきたが、かなう様子はない。「何を言ったって一緒」とあきらめ顔でつぶやいた。

再稼働を前に他地区の住民も不安はぬぐえない。高浜町には在宅で寝たきりの高齢者が百人以上いる。高浜原発から四、南の国道沿いで有料老人ホーム「であいの郷」を運営する山本勝則さん(六)は「マイカー中心の避難計画では忘れられてしまう。音海は住民の連携がうまくいっている方が、町全体は危機感が薄く、心配だ」と話した。

